

# 特集にあたって

『血液浄化療法ハンドブック』（透析療法合同専門委員会編，協同医書出版社）によると、「血液浄化とは，体外循環技術を利用して血液を体外に導き出し，種々の物理学的・化学的・生物学的原理を応用して血液中の病因（関連）物質を除去する医療技術である」と定義されています。1990年代になり，重症患者の腎補助療法として開発され，新たな治療法として注目を集めるようになりました。本誌『救急医学』においても，これまでに2004年10月号の「Critical Careにおける血液浄化法；up-to-date」，2008年11月号の「血液浄化法の基礎知識と実践」と2回の特集が組まれています。

今やわが国において，重症患者のCHDFや敗血症性ショックに対するエンドトキシン吸着（PMX）などは，ICUでの重症患者管理に不可欠な治療法と考えられ，保険収載も行われています。しかし，その適応や導入のタイミング，施行方法に関してはいまだに明確なエビデンスはなく，標準化されているとはいえない状況であり，わが国あるいは欧米においてもガイドラインなどで明確な推奨を得られていない状況でもあります。

そこで本特集では，重症患者の急性期治療（critical care）のなかで施行される血液浄化法の最新知見を，本領域に造詣の深いオピニオンリーダーの先生方に，“救急医がキャッチアップすべきトピックス”としてまとめていただきました。

まず「総論」は，血液浄化法を施行するうえで必要な基本的知識の部分をブラッシュアップできる内容とし，次に「各論」は，何をどのように使うかという視点で選んだ5つのトピックスで構成しました。

救急・集中治療の現場で奮闘する若手救急医の皆さんに，血液浄化法の「今」を感じていただければ幸いです。